

地域の輪で住みよいまちに

～特色あふれるまちづくり活動～

私たちの住むまちをもっと住みよい魅力あるまちにしたい——。こんな願いを実現させる大きな力の一つは、「まちづくりの主役は自分たち！」という熱い思いではないでしょうか。

今回は、地域が主体となり、まちづくり活動に取り組んでいる事例を紹介します。

地域で築く「学び」の場

篠路地区では、連合町内会や社会福祉協議会、各小・中学校などが「篠路コミュニティネットワーク会議」を結成しています。この会議では、日ごろから地域住民の福祉や安全のための取り組みを行うなど、積極的にまちづくり活動を進めています。

昨年八月には、高齢化社会における生涯学習の場を作ろうと、地域が主体となって、六十歳以上の人を対象に「篠路シルバー水曜大学」を開講しました。これは、「高齢者が生き生きと暮らすことのできるまちになれば、街全体も



▲講座の内容は、地域の歴史を見つめるものから、応急法を学ぶ実用的なものまでさまざま

生き生きとしてくるはず」という地域住民の思いが結実したものです。講師のほとんどが地域に住む人たちという、まさに地域主体のこの講座。受講希望者が殺到し、定員を予定の五十人から八十人に拡大して開講したほど、地域の関心は高いものでした。

最年長の受講者は、八十二歳の山崎喜平さん。「町内会役員を辞めてからは、自由に使える時間が増えたので、新しい知識を吸収して、自分を成長させたいと思ったんです」と、山崎さんは受講した動機を話してくれました。最



▲講座を通じて思い出すことができた「知る喜び」。「主催者の皆さんに感謝しています」と、修了証書を手にする山崎さん

も印象に残った科目は、篠路のまちづくりについての講座だそうです。「若い人たちが、どんなまちを目指してまちづくり活動を行っているのかがよく分かりました。まちづくりに対する住民の理解と一体感が深まれば、ますます住みよいまちになりますね」と、山崎さんは話します。

篠路コミュニティネットワーク会議事務局では、今年も「篠路シルバー水曜大学」を開講する予定です。きつとたくさんの人たちが、講座を受講して交流を広げることでしょう。そして、みんなが生き生きと暮らすことのできるまち「篠路」は、ますます魅力あるまちとなっていくことでしょう。